

生産ラインでの低高温通電試験

事例 & ご提案

～ノードア_aを活用した環境構築～

AMEFREC

目次

- ①生産ライン上の低高温通電試験
- ②タッチパネル式操作端末の生産ライン上における、低高温通電試験とは
- ③複数のノードaによる異なる温湿度環境
- ④ロボットアームとの組み合わせ

ノードa 参考仕様

① 生産ライン上の低高温通電試験



①生産ライン上の低高温通電試験

タッチパネル式操作端末の生産ラインでの事例です。

コンベア横にノードアαを設置します。

流れてくる製品をピックアップし、電源線などを接続。
そのまま槽内へ挿入します。

全面にドアが無い為、槽内の温度を乱すことなく製品を設置可能で、
そのままなぞり操作などを行うこともできます。
数本の細かいケーブル程度であれば槽前面から出しているても、
温湿度への影響はありません。



② タッチパネル式操作端末の 生産ラインにおける、低高温通電試験とは

タブレット、スマートフォン、カーナビ、その他産業用デバイスなどのタッチパネル式の操作端末の中には、生産ライン上で低高温通電試験を行うものがあります。

コンベアによって流れてくる製品をピックアップし、電源線等を接続し、恒温槽などの温湿度を制御できる装置に挿入します。

製品によって規定された試験項目（電源オンオフ、なぞり操作など）を行い、問題が無いことを確認できたら、ラインに戻し、次の工程へと送ります。

③ 複数のノードAによる異なる温湿度環境



③ 複数のノードαによる異なる温湿度環境

ライン上に複数のノードαを設置することで、異なる温湿度環境を用意することができます。

例えば、 -10°C の冬場想定と 40°C の夏場想定、 35°C 80%の亜熱帯想定を用意し、順番に試験を行っていくことも可能です。

最小限のスペースで、ライン上に精密に温湿度制御された空間を用意できます。

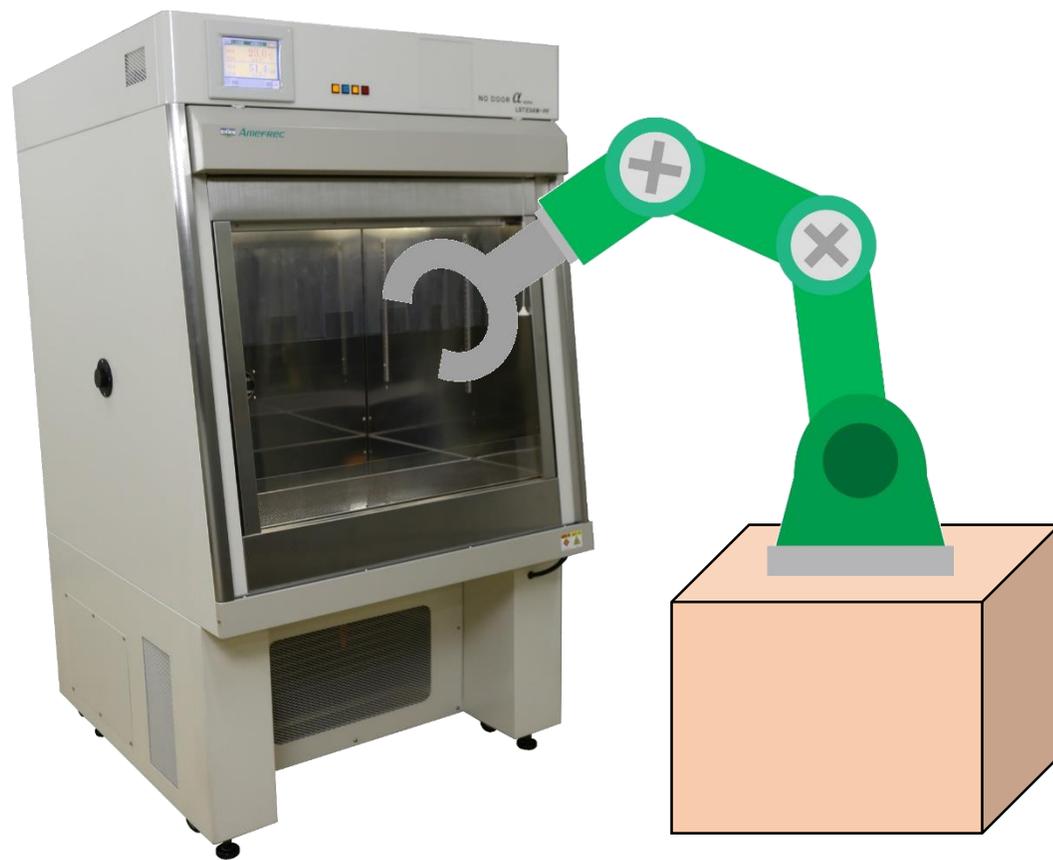


④ ロボットアームとの組み合わせ

ロボットアームを用いて自動化された生産ラインにも活用いただけます。

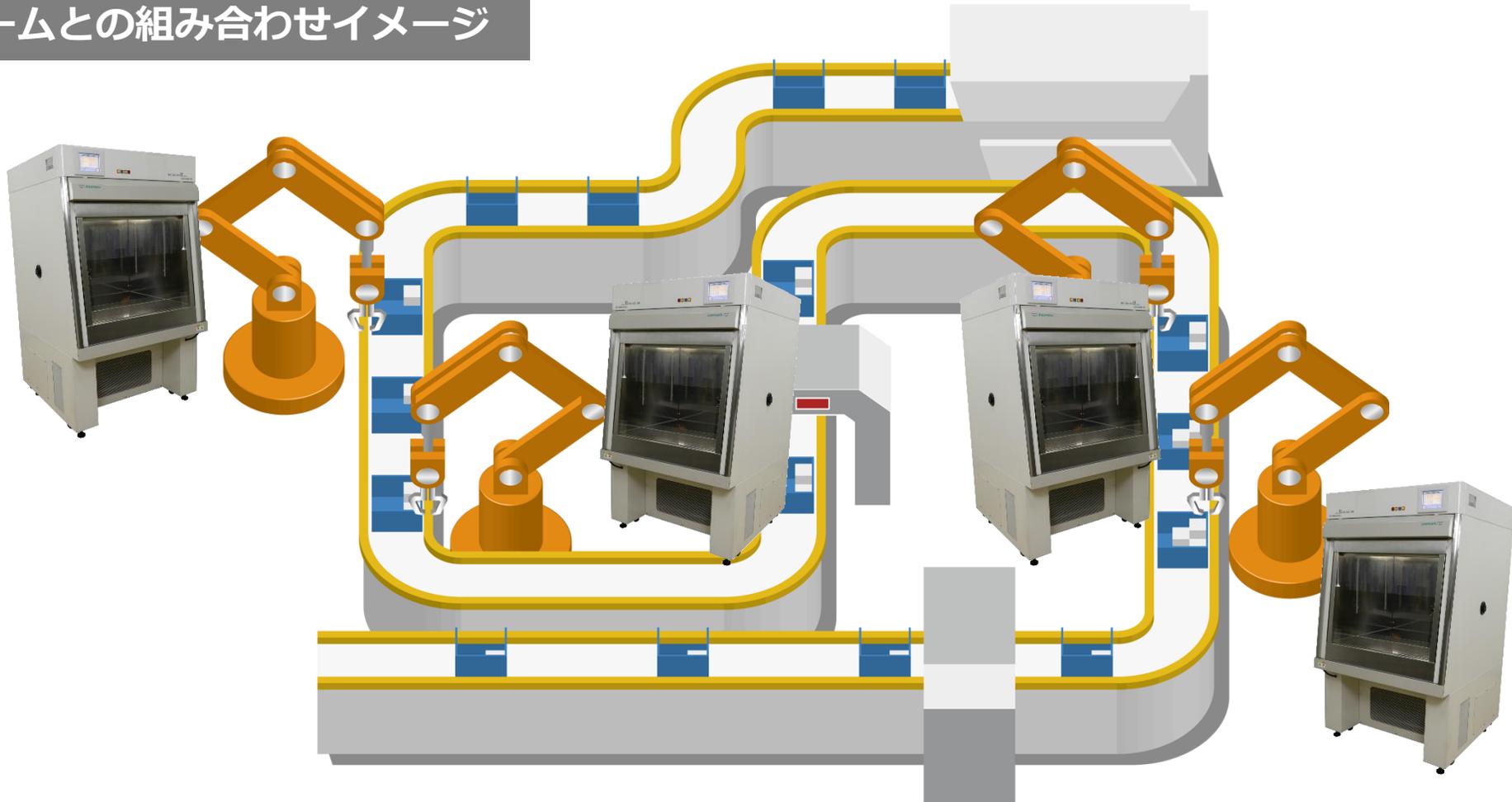
ドアレス構造により、アームの先端がそのまま槽内に入れるので、自動ドアの設置や、ドアの開閉機構の追加の必要がありません。

人間にとってもロボットにとっても、使い勝手の良い恒温槽となっています。



④ロボットアームとの組み合わせ

ロボットアームとの組み合わせイメージ



ノードアa 参考仕様 (LST365W-PF)



温度範囲 : $-20^{\circ}\text{C} \sim +80^{\circ}\text{C} (\pm 0.5^{\circ}\text{C})$
湿度範囲 : $30 \sim 80\% \text{RH} (\pm 2.0\% \text{RH})$
温湿度分布 : $\pm 1^{\circ}\text{C} / \pm 5\% \text{RH}$
温度上昇 : $+25^{\circ}\text{C} \rightarrow +80^{\circ}\text{C}$ 60分
温度下降 : $+25^{\circ}\text{C} \rightarrow -20^{\circ}\text{C}$ 90分
槽内寸法 : $W1020 \times D670 \times H730$
製品重量 : 450kg

電源 : 3相 AC200V 50/60Hz

製品に関するお問い合わせ、ご相談は以下の連絡先までお願いいたします。



穂高電子株式会社

Hodaka Denshi Co., Ltd.

URL: <https://www.hodaka.co.jp/>

本社：〒222-0033 横浜市港北区新横浜2-12-12

新横浜IKビル 9F TEL:045-595-9394

拠点：	本社	TEL 045-595-9394	横浜営業所	TEL 045-595-9501
	厚木営業所	TEL 046-224-1293	東京営業所	TEL 042-585-1816
	名古屋営業所	TEL 052-243-7820	三重営業所	TEL 059-223-7155
	浜松営業所	TEL 053-465-2731	関西営業所	TEL 06-4805-1030
	京都営業所	TEL 075-605-9977	岡山営業所	TEL 086-207-6406